氏名： 岸本　美緒
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 教授
学位： 文学修士（1977 年 3 月）
専門分野： 中国史
E-mail： kishimoto.mio@ocha.ac.jp

◆研究キーワード　／　Keywords

中国史／ Chinese history

◆主要業績　　総数（8）件

・「『中国』の擡頭 ?? 明末の文章書式に見る国家意識の一側面」『東方学』118 輯、29 年 7 月、1?21 頁。
・「清初の『文武相見儀注』について」『東洋史研究』68 巻 2 号、29 年 9 月、92?121 頁。
・「冒捐冒考訴訟与清代地方社会」邱澎生・陳熙遠編『明清法律運作中的権力与文化』聯経出版公司、29 年 4 月、143-173 頁。
・Social Turbulence and Local Autonomy: Japanese Historians Interpret Chinese Social Groupings, trans. by Joshua A. Fogel, Late Imperial China,Vol.3, No.1, June 29, pp.119-15.
・「『近世化』論と清朝」岡田英弘編『別冊環　清朝とは何か』藤原書店、29 年 5 月、232-238 頁。

◆研究内容　／　Research Pursuits

29 年度は、文部科学省科学研究費基盤研究（B)「身分感覚の比較史的研究」の第二年度であったこともあり、身分関係の研究を中心に行った。28 年に台湾の学会で行った報告「冒捐冒考訴訟与清代地方社会」が出版されたほか、「清初の『文武相見儀注』について」を『東洋史研究』に発表した。又、7 月に大阪市立大学で開かれた比較史のシンポジウムで、日本と中国の身分制に関する報告を行った。関連の社会史関係では、日本と中国の社会団体研究を史学史的に評論した「動乱と自治」の英語版を出版した。
経済史関係では、オランダのユトレヒトで開かれた国際経済史学会議で、明清時代の市場構造に関する報告を行った。明清間の国家的・社会的変動に関しては、論文「『中国』の擡頭」を『東方学』に掲載し、また、論文集『清朝とは何か』に寄稿した。そのほか、書評 2 編を執筆・発表した。

◆教育内容　／　Educational Pursuits

学部では、外国史論文講読、東洋史講読のほか、特殊講義と演習を担当した。特殊講義では、「東アジアの『近世』」と題し、明清時代の社会変動を世界史的な視野から考える試みを行った。演習では、前期・後期ともに顧炎武『日知録』の講読を中心とし、関連の論文の書評なども行った。
大学院では、演習を担当し、出席者による研究報告や書評及び討論を通じて、アジア史研究の方法を考究した。

◆研究計画

科学研究費などの共同研究にいくつか参加しているので、当面それらに即して研究を行う。

◆メッセージ

歴史学の面白さは、人間社会の多様なあり方に触れて「こんな社会もあるんだ」と驚くこと、そして、自分の目で史料を読み、自分の頭で考えることを通じ、そうした社会を単に異様な社会としてではなく人間の生きる一つのあり方として感じ取ること、にあると思います。それは皆さんが今後、広い世界で様々なことに興味をもって生きていく上で、きっと役に立つ訓練となるでしょう。